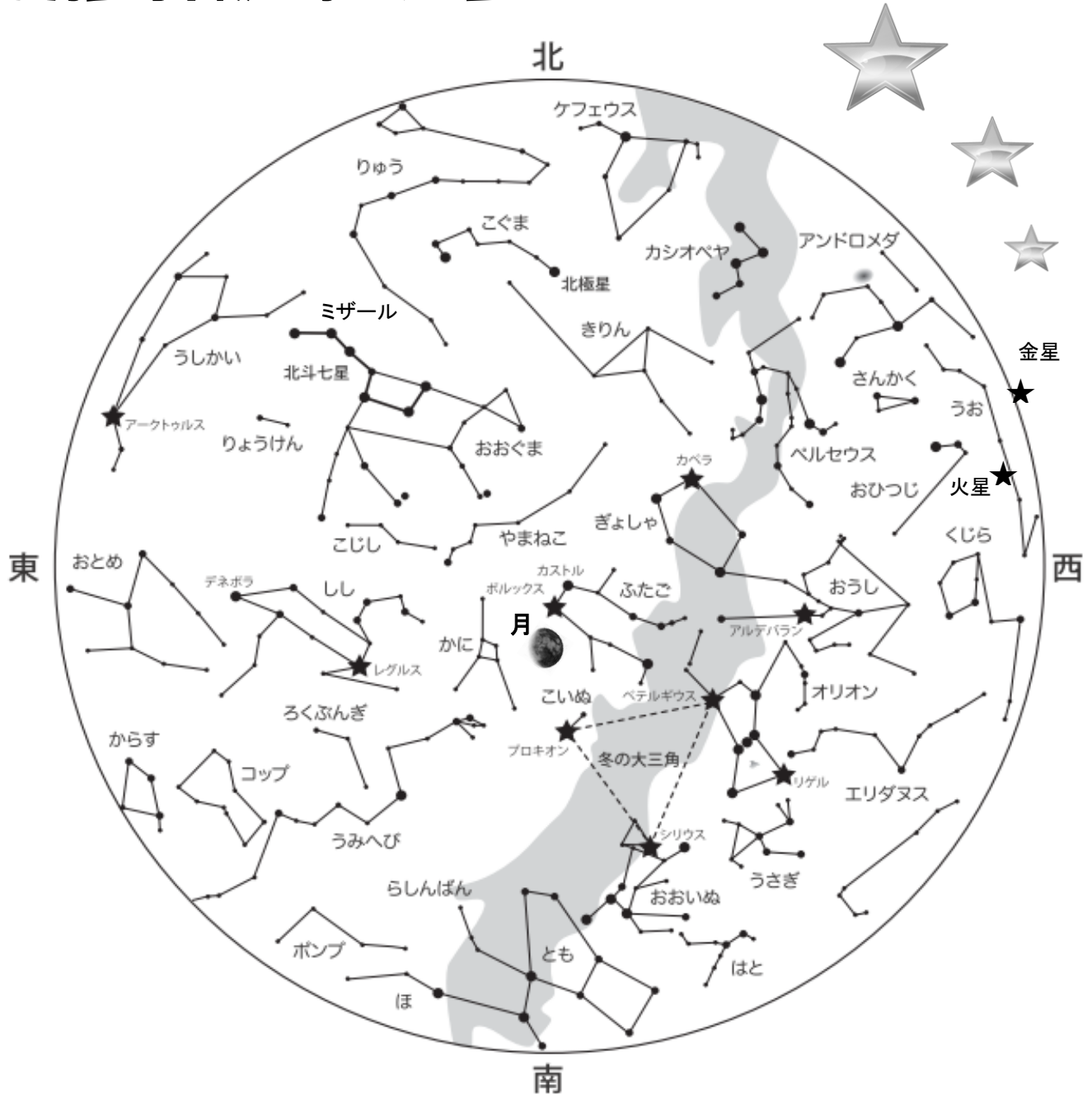


松江市立天文台～3月の天文教室～

平成29年3月8日

3月上旬午後8時ころの星



太陽が沈んだ西の空にひときわ輝く金星が見えます。金星は満ち欠けをする惑星で、この時期は天体望遠鏡で三日月のような形に見ることができます。

暗くなると、オリオン座、おおいぬ座など冬の星座が見えてきますが、夜が更けるにつれ、東から、しし座、おとめ座など春の星座たちが昇ってきます。

3月初旬午後8時頃の星空です。

月の見かけの大きさは強調してあります。

この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょう。

今夜の月

今夜の月は、月齢10

月は地球の衛星で、その直径は3千4百キロメートルあまり、27日で地球の周りを回っています。月が光るのは、太陽の光を反射しているためで、地球、太陽との位置関係でその形が変わります。

月の表面には火山の火口のような地形が無数に見られますが、これはいん石が衝突してできたもので、クレーターとよびます。



金星

金星は地球より内側で太陽をまわる惑星です。地球より太陽に近いので、太陽からあまりはなれて見えません。夕方に見える時は、「宵の明星(よいのみようじょう)」、夜明けに見える時は「明けの明星(あけのみようじょう)」とよびます。

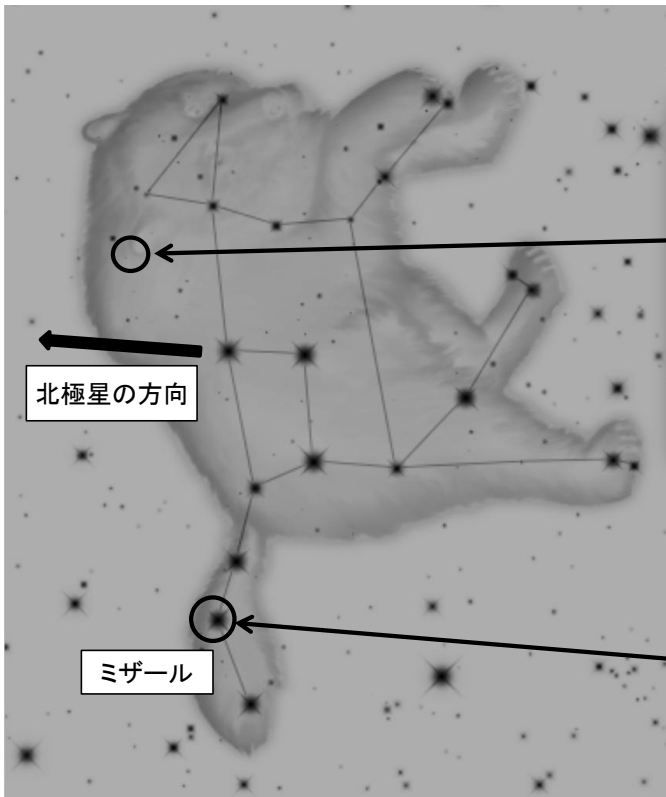
金星は厚い雲におおわれ表面を見ることはできません。

今の時期の金星を天体望遠鏡で見ると、三日月のように欠けて見えます。



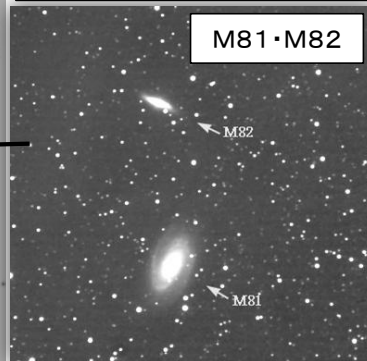
金星は太陽からあまり離れません。

おおぐま座



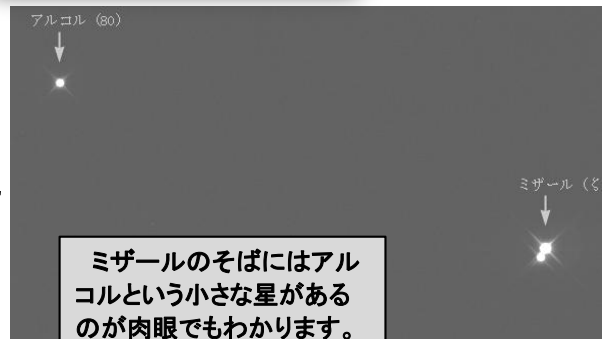
おおぐま座は、ギリシャ神話で美しい妖精カリストの化身した姿としてえがかれていますが、星座の一部になっている「北斗七星」の方が親しみがありません。

また、北斗七星から北極星をさがすこともできます。



ふたつの銀河が、天体望遠鏡で同じ視野に見えています。

距離はともに1790万光年といわれています。



ミザールのそばにはアルコルという小さな星があるのが肉眼でもわかります。さらにミザールを天体望遠鏡で見ると、二つの星にわかれて見えます。

天文のデータは主に天文年鑑から引用しています。使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えます。また、空のコンディション(雲、透明度)により、天体の見え方は違います。

次回の天文教室

開催日 4月26日(水) 20時から21時まで
(受付は19時30分から市役所正面玄関で行います。)
事前の予約は不要です。



★ MAC Matsue Astronomy Club
松江星の会